

# 令和 5 年度実践報告 English B

高橋 智子  
永井 智大  
柏柳 航  
松田 香織

## 1. 要旨

English B では英語圏の文化を理解し言語的な運用能力を高めることで、英語で効果的にコミュニケーションをとれるようになることを目的としている。本校では HL、SL を設置し、1 年次の 12 月まで Pre-English B として週 5 時間、DP 開始の 1 月から HL 週 5 時間、SL 週 3 時間の授業を実施した。本報告書では、令和 4 年度研究開発実施報告書に記載した課題と展望を踏まえ、令和 5 年度 16 期 (IB3 期生) を振り返る。

## 2. 取組みの振り返り

昨年度の「2. 新しい取組み」と「4. 課題と展望」(神奈川県立横浜国際高等学校, 2022)について、特に 16 期生 (IB3 期生) に焦点を置いた振り返りをする。

### 2.1. 内部評価 (Individual Oral)

SL に関して、英語圏文化に精通していくことは 14 期生 (IB1 期生) からの課題であった。3 年目の取組みとして、具体的な事柄に関して教員から提示し、それに基づいたりサーチ、ディスカッションをトピックごとに行った。その結果、トピックと文化の関連をより深く理解し、発展的なディスカッションになった。IA でのパフォーマンスにおいても、授業でのディスカッションが活かされていたと感じた。トピックとどんな文化面を関連させて、どの程度の情報を提示するかは、引き続き授業改善の一環として継続的に取り組む必要があるが、17 期生 (IB4 期生) 以降は、おおむね順調な指導ができています。

### 2.2. 語彙に関する取組み

16 期 (IB3 期生) では、Academic Words List (AWL) 570 を活用して、定期的なテストと言語活動を組み合わせて、語彙の定着を図ってきた。実際、使う意識は高まり、paper 1 や IA での academic words の使用頻度は高まった。しかし、AWL はあくまでもリストであり、使い方や正しい意味を理解できていない生徒もいた。そこで、19 期生 (IB6 期生) では、テキストを変更し、日本語を介在したインプットを行っている。その成果も今後、注視していく。

### 2.3. All English の環境

16 期 (IB3 期生) も、徹底した filler words の指導もあり、2 年次以降、意識が高まり英語だけの環境に馴染むようになった。クラスの雰囲気も英語で表現する努力が平常の姿となり、言葉がでない生徒も周囲からのサポートや教員とのやりとりの中で、徐々に発話する量が増えたように感じる。All English の環境を当たり前にするためには、教員と生徒間での共通認識をしっかりと共有し、一貫した指導が重要である。

### 3. 課題と展望

言語習得における指導成功のカギは、毎日の積み重ねを当たり前のようにできる自立した学習者を育てることである。18期生（IB5期生）では、16期生で成果のあったReadTheoryを徹底して習慣化するように指導しているが、やはり自立した学習者に育てるためには、さらに手だてが必要だと感じる。また、IAやpaper1に関しても、毎回の授業でのディスカッションをいかに丁寧に自身で復習できるかが重要である。これも、長期間に渡る指導と学習の積み重ねにより本番で最も高い達成度にたどり着く。生徒全員がIA本番と最終試験までに、最大限能力を発揮できるよう、繰り返し一貫した指導を行っていききたい。

今後は、教員の入れ替わりが進むと想定される。指導の蓄積を繋いでいくために、早い段階での教員確保は急務である。生徒だけでなく、教員にとってもチャレンジングなプログラムを今後も高い質を保ちながら継続していくために、教員の努力だけでなく、学校として課題意識をもって、行政機関と連携していくことが必要と考える。

### References

- 神奈川県立横浜国際高等学校. (2022). Language B (English) 指導の改善と課題. 国際バカロレア デイプロマ・プログラム 研究開発実施報告. [https://www.pen-kanagawa.ed.jp/yokohamakokusai-h/ib\\_rd-report/group2/documents/11\\_r4\\_ib\\_research-report\\_englishb.pdf](https://www.pen-kanagawa.ed.jp/yokohamakokusai-h/ib_rd-report/group2/documents/11_r4_ib_research-report_englishb.pdf)
- 神奈川県立横浜国際高等学校. (令和4年3月). 神奈川県国際バカロレア認定推進校令和3年度研究開発実施報告書. 神奈川県立横浜国際高等学校.